

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。秋の装いはどこ吹く風、時折、夏のような気温になる日あり、寒暖差が続く今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は10月27日に山形県で開催された全日本35km競歩高島大会で見事、世界記録で優勝した『川野 将虎』選手（旭化成所属）に注目しました。

川野選手は勝木隼人選手（自衛隊体育学校所属）と丸尾知司（愛知製鋼所属）のライバルたちを25km過ぎにぐんぐんと突き放し1位でフィニッ

シュ。35km競歩で初めて2時間22分台を突破し2時間21分47秒で世界記録保持者となりました。ゴール後のインタビューでは『多くの方々の支えがなければ、私はこの舞台に立つことが出来なかったですし、記録を出すこともできなかったもので、今は率直に感謝を伝えたい』と周囲の人たちへの感謝の思いを口にし、『ここがゴールではなく、あくまでスタートラインにようやく立てた』と語りました。世界記録を樹立してもまだスタートラインだと語った川野選手のスケールの大きさに驚きました。まだまだ先を見据えてのコメントだと思います。私も川野選手を見習い、先を見据えて精進しようと深く心にきざみました。これから寒くなる季節がやってまいります。皆様くれぐれもご自愛ください。

サンライズの物語

出来ないことよりも自分ができる事を続ける—— 気持ちの強さについて考える物語



その方は同居のご主人を亡くされてからお一人で暮らして、担当のお医者さんが大好きで先生に会うと元気ができると何度も受診されていた方でした。

できる事はなるべく自分で行いたいとの本人様の思いで、いつも明るく訪問してくる看護師さんやヘルパーさんにも感謝の言葉を繰り返し伝えていたのです。

毎月入ってくる年金を楽しみにされ年金が入ったら買う物を決めていたのですが、ある日胸の苦しさを訴え緊急警報のボタンを押したのですが、間に合わず永遠の眠りについてしまったのです。

一人で暮らしていて施設への入所の話もしていたのですが「自宅で最期までいたい」とのご本人様の強い意志があったことからご自身の意思を貫き通した最期だったと思いました。

お亡くなりになってから思いだすのは笑顔です。お話が好きで転げるように笑い、他の人達を幸せな気持ちにさせた方でした。

ご自身のできなくなった事を悲観するのではなく、自分でできる事を続ける事は、ある意味勇気のあることだと思います。

若い時は両親が居て家族がいますが年を重ねる度に一人一人を見送らねばならない・・・人は最後は一人になるのです。一人になった時に自分の気持ちをしっかりと持っていないと生きられない事を改めて思い知らされました。

サンライズのデイサービス陽光だより



お誕生日

皆さんでお誕生日の歌を歌って誕生日カードをプレゼントさせて頂きました。
おやつに手作りパンケーキをお出ししました。



カレンダー製作

折り紙と色画用紙
で焼きいもを作り
画用紙に飾り付け
て作りました。



NEWS 今月のニュース

福祉や介護 興味持って 金城大生が 鶴来高生に紹介 白山市主催 背景に 職員の人材不足

福祉や介護に興味を持つ生徒に具体的な進路を思い描いてもらおうと、白山市の鶴来高校で18日、同市の金城大社会福祉学科の学生と同校の生徒との交流会が開かれた。能登半島地震の影響で浮き彫りとなった介護職員の減少を解決するため、市が初めて主催。特別養護老人ホームで介護福祉士として働く金城大OB・OGも登壇し、仕事のやりがいを説明した。(安里秀太郎)

金城大は県内で唯一の介護福祉士を養成する4年制大学。交流した学生は4年の3人で、卒業後は介護施設や病院で介護福祉士や相談員などとして働くことが決まっている。金城大で学ぶメリットとして、実習を通じたコミュニケーション能力の向上が期待できることや、グループワークで人の意見をまとめる力が付

く点などを伝えた。

その後、OGで特養「つるべ荘」(社会福祉法人福志会松任運営)の介護福祉士、島崎奈津美さん(26)らにバトンタッチ。島崎さんは「介護施設の利用者は一人一人違った生活リズムやスタイルで生きている。それに沿って手伝うのが私たちの仕事」と説明。「大変なことも多いけど、楽しいからできる」と話し、利用者に名前を覚えてもらう工夫も紹介した。

市がこうした交流会を開く背景にあるのが、介護職員の人材不足だ。市は2023年2月、市内の介護施設全132事業所を対象に人材実態調査を実施。回答を得た82事業所のうち、人材が「不足している」と答えたのは62%に上った。

市によると、各事業所とも新しく入った職員の1割が1年以内に離職し、人材の定着が停滞している。さらに元日の地震の影響で避難者の入所や通所が増えて業務が多忙となり、

職員の負担は増えている。

交流会の後、同校2年の杉山友望さんは「最初は福祉について全然知らなかったけど、進路として視野に入れてみようと思う。金城大の実習が充実していて興味が湧いた」と話した。

市長寿介護課の横山三千代さんは「来年以降も継続し、人材不足が少しでも解消できれば」と期待した



金城大で学んできた内容や進路について紹介する学生たち=白山市の鶴来高で

<中日新聞 24/10/21(月)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>